

政府予算 11兆円使わず

22年度、3年連続で最大

政府が予算に計上したもの

なった。

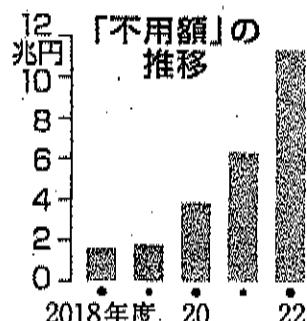
の、使わなかつた「不用額」は二〇二二年度が十一兆三千八十四億円となり、三年連続で過去最大を更新した。二二年度から79・4%増えた。国会審議を経ずに内閣の裁量で使い道を決められる予備費を十一兆七千六百億円用意したが、三分の一強の四兆一千五百一十七億円を使い残したこと

が、見積もりが甘くなつた。予備費は新型コロナウイルス禍や物価高、ウクライナ危機に備える狙いだったが、見積もりが甘くなつたようだ。予算の歳入の多くは借金である国債の発行に頼つてゐるだけに、無駄のない予算が求められてゐる。

財務省によると、コロナ禍と物価高に備えた予備費

は九兆八千六百億円のうち二兆七千七百八十五億円を使わなかつた。二二年十二月成立の第二次補正予算に計上したウクライナ危機対応の予備費は一兆円の金額が手付かず。通常の予備費は九千億円のうち二千七百四十一億円が余つた。

「不用額」の推移



財務省の担当者は「必要な政策が資金不足で行えない事態にならないように予算を組んでいる」と説明する。一方、白鷗大（栃木県小山市）の藤井亮一教授（財政学）は、多大な不用額の発生は「甘い見積もりの結果だ。二二数年続いた大型経済対策を見直し、コロナ流行前の予算に戻すべきだ」と訴える。

不用額の一部は、国債の発行額を計画より減らすことに使われ、さらに地方交付税に回す分を差し引いた二兆六千一百九十四億円が剩余金となつた。政府はこのうち半分を国債の償還に充て、残り半分を防衛力強化に使う。